

看護部

1. スタッフ（平成24年4月1日）

看護師	1,233人
助産師	66人
保健師	3人
保育士	8人
クラーク	40人
看護補助員	100人

2. 看護部理念

私たちは、患者・家族の皆様が、安心と満足の得られる看護を提供します。

3. 基本方針

- 1 特定機能病院の役割として、患者さんの安全で快適な療養環境を整えるとともに、他の医療機関と連携します。
- 2 社会の変化に対応できる看護を目指し、自己研鑽に努めます。
- 3 教育機関として、医学生・看護学生等に模範を示し、後輩の育成に努めます。
- 4 自治医科大学附属病院で培われた看護を他の医療機関でも実践し、地域医療に貢献します。

4. 平成23年度看護部重点目標

平成23年度の看護部の重点目標は前年度と同様で「医療をとりまく社会情勢に対応し、チーム医療の中で看護部門の役割を果たす。」とし、以下の3項目を挙げ、活動を行った。

- 1) 多職種と連携し質の高い看護ケアを提供する。
- 2) 臨床看護職員研修を実施し、看護部の全職員が成長する。
- 3) 安心・安全な医療を提供するために、看護職としての判断能力を高める。

5. 委員会とプロジェクト・連絡会

看護部の目標達成に向け、委員会活動を中心に行っている。委員会は次の1)～9)の委員会と1つのプロジェクト、2つの連絡会で以下の活動を行った。

【委員会の活動】

1) 研修委員会

JASMIN（キャリア開発支援プログラム）に沿って看護部職員の教育研修を企画・実施・評価を行った。看護職キャリア支援センターの設置に伴い、APPROACHの研修はなくなり、クリニカルシンキングⅠとクリニカルシンキングⅢBは今年度で修了となる。評価システム

のSTEP・MAIN・INTEGRALは例年どおり実施された。クラーク研修では「医療関連感染症を防止するために」と題して、感染管理認定看護師が講義を行った。看護補助員研修は看護補助加算の算定要件として6項目の基礎知識の1つである接遇に関する講義を行い、グループワークを行った。

また、JASMIN通信を発行して研修の周知を図った。キャリア開発支援システム「ナースナビ」については本格的な運用に向けて準備を行った。

2) 安全活動推進委員会

「安全のルールを守るための方法を提供し、周知徹底をはかる」を活動方針とし、①5S活動の継続②指差し呼称の継続③手指衛生・个人防护具の着脱のルールの徹底④転倒・転落アセスメントシートの運用の徹底について活動した。

①は巡視を行い、5Sが継続されているかを確認し助言を行った。②は指差し呼称によって防げた事例を紹介し、効果を重視して実施を促した。③は感染制御部の協力で、个人防护具の着脱法を掲示した。④は転倒・転落危険度をベッドサイドで把握し、注意喚起ができるような表示方法を検討した。

3) 臨床看護倫理委員会

倫理的感性を高めることを活動方針とし看護倫理の理解を深め、倫理規定を適切に解釈できることを目的に研修会を実施した。172人が参加し、ほぼ90%の参加者が倫理規定の理解ができたと評価した。

倫理的視点での看護活動、看護倫理の啓発を目標に各部署で事例検討会を実施した。倫理的視点で検討できたかを自己評価し、事例検討会で検討した内容について委員会の部署担当委員と部署間で意見交換を行い、倫理的問題について理解を深める取り組みを行った。また、日常の行動を振り返り、倫理的行動が実践できているかについて、アンケートを実施し、3年間の比較調査を分析した。

4) 看護研究委員会

活動目標はスタッフの教育レベルに沿った指導を行い看護研究の質を上げることである。

重点目標は①JASMINのMAIN修了者と看護師長・主任を対象に看護研究の勉強会を実施した。

テーマは「今さら聞けない看護研究—研究計画書の書き方—」で参加者は220人であった。

看護学部と行っている院内研究発表論文の査読会に、発表部署の看護師長・主任がオブザーバーとして参加した。

院内看護研究発表会は9月と2月に開催した。

9月は310人、2月は334人の参加があった。活発な質疑応答がされ、看護学部の教員からの総評もあり次年度に繋げられる内容であった。

また研究倫理審査申請手続きワークシート（院内発表用・院外発表用）を作成した。

5) 看護記録委員会

「実践した看護が見える看護記録ができること」を目標に、年3回の看護記録監査を実施した。

監査内容は患者を共通理解するための情報を収集しているか、情報を看護に活用しているか、統一した看護を提供するための看護計画を立案しているか、看護計画が計画通りに実施されたか、実践した看護を評価して記録しているかである。

監査した内容は、部署単位、項目別にレーダーチャートで示して部署に返し、看護記録による看護の可視化ができる力を育成すると共に、看護の質の向上につながる関わりを今年度も実施した。また、看護記録の基準・手順を見直し看護記録が規則に沿って実施できるように、J-HOPに掲載した。

6) 看護情報システム委員会

医療情報部と連携し、病院情報システムの運用と看護を示すデータの活用を中心に活動した。

看護実践を評価する指標となり得るデータの検討を行い、部署に毎月配布した。データを提示することで部署への意識づけとなり、データの精度を上げることに繋がってきている。連絡員の勉強会では、年度はじめに各自が取り組んだ活動の報告を行い、連絡員としての役割の意識付けと理解に繋がった。今年度も各部署の課題を達成できるように支援した。

看護必要度評価は精度を上げるために、演習問題の作成やe・ラーニングの実施等を行った。

他にシステム改修の提案や看護職者に対する病院情報システム操作研修への協力を行った。

7) 看護サービス推進委員会

療養環境・職場環境を整え患者満足の向上を図ることに重点をおいて活動した。「ご意見箱」の患者さんからの感謝の言葉やクレーム・意見を、「患者からのメッセージ」として、ミニポスターを作成し、部内の啓発活動を行った。病院内コンサートは、これまで七夕とクリスマスの2回実施していたが、今年度は秋のコンサートも実施した。患者・家族からは、癒しの時間が持てたと好評を得ている。

「入院患者満足度調査」を実施し回収率は72.4%であった。病棟毎に看護ケアの満足度の結果を返し活用してもらった。

8) 看護業務委員会

「質の高い看護ケアを提供するために業務を整える」ことを目標に活動してきた。1つは昨年、J-HOPに登載した看護業務基準・手順の修正と作成である。アンケート調査から、作成している部署が多かった項目の、「胸

腔穿刺」「腹腔穿刺」「気管カニューレ交換の介助」と新人看護師の経験回数の多い項目である「超音波ネブライザー」の4項目を新たに作成した。新人看護職員臨床研修制度や看護実践の場で、多くの看護師に看護業務基準・手順を活用して欲しい。もう1つは、医療材料の整理更新、便利な看護用具についての検討である。

医療材料に関しては現在使用している吸引器と酸素流量計について調査を行った。便利な看護用具については、各部署で便利であると思う物品を調査し、貸借しやすい方法を検討中である。

9) 臨床指導検討委員会

平成23年度の主な活動は、臨床指導者の質の向上を目指すための評価方法の検討を行った。

臨床指導者が役割を理解し評価できるように、「臨床指導者の手引き」を見直し、評価表を作成した。

また、「臨床指導者の手引き」を適正に活用することができ、自己評価を行い、指導者が自分の行った指導内容を振り返ることができるように、運用基準を作成した。

例年行われているワークショップを9月に開催した。

事例分析シートを活用し、臨床指導者の理想像について、グループワークを行った。臨床指導者の経験年数に幅があるため、全体の受講者のニーズに合った内容には限界がある。今後、対象者を絞った研修内容を検討してゆく予定である。

【固定チームナーシング・プロジェクト】

今年度の看護部のBSCにおいて、人材育成の為の看護体制の構築として固定チームナーシングを導入することとした。導入準備→実際→取組み→定着を考えると複数年取り組むことが想定される。

各部署で行っている看護方式のアンケート調査の実施や主任研修会では固定チームナーシングについて抄読会を行った。（各部署に参考図書の配付があった。）

また、各部署の「職場の現状分析」についてまとめたものを事前準備とし、12月11日・12日は西元勝子先生・杉野元子先生を講師にお招きし、看護師長と主任の合同研修会を開催した。

スタッフを対象に固定チームナーシングの説明会を、2月～3月に5回開催した。

平成24年度から26年度までの3年間で、36部署が導入できるように取り組むこととした。

平成24年度には導入部署の成果発表会を予定している。

【専門・認定看護師連絡会】

専門性を高め相互研鑽することにより、質の高い看護を提言することを目的に活動した。

専門・認定看護師の活動について、PR不足なのでHPでの紹介は継続することとした。

専門・認定看護師の相談窓口については、相談内容や相談方法が分かりやすいように一覧表にして「専門看護師・認定看護師相談窓口」を作成し、配付した。

活動の記録は、認定看護分野別看護管理日誌に入力して

いる。

〔地域派遣支援連絡会〕

活動方針は「派遣研修が当院看護部の特徴と言えるように、広報活動を強化し、院内でも十分な情報が各部署に配信できるようにする。」である。

今年度も派遣研修として4ヵ所の医療機関に30人の看護職員が出向している。地域派遣指導者を2回開催した。1回目では看護学部の春山教授から「地域看護の意義と魅力」というテーマで講義をしていただいた。JASMINにおける派遣の位置づけと個人票について明確にした。

派遣出向に関しては事前に現地体験研修を行い、課題を持って取り組むことにしている。課題の進捗状況をチェックし適切な支援のためにメンバー以外の看護部長の協力も得て訪問指導を行った。

3月の事前研修会では該当者が参加し、「地域派遣の心構え」の講義、派遣先病院のプレゼンテーションおよび情報交換を実施した。

6. 専門看護師の活動

急性・重症患者看護の専門看護師は平成22年2月に1名が認定され、平成23年度は小児看護領域で3名認定され合計4人であったが、更に12月にがん看護で1人認定され3領域5人の専門看護師となった。

専門看護師の役割は「実践」、「相談」、「調整」、「教育」、「研究」、「倫理調整」の6つである。

1) 急性・重症患者看護

(1) 院内活動

- ①看護職キャリア支援センターと兼務である。
- ②新人看護職臨床研修および集合研修における講師
- ③人工呼吸器管理安全対策チームへ参画し、1回/週の病棟巡視および人工呼吸器装着患者へのケアに関する相談対応
- ④ケアの実践勉強会の企画運営、一部講師
- ⑤ICU入室患者への看護ケアの実践、調整
- ⑥スタッフからのコンサルテーションの対応、実施
- ⑦看護研究支援6件
- ⑧臨床治験に関わる薬剤師へのフィジカルアセスメント講習の企画・運営

(2) 院外活動

- ①日本看護協会看護研修学校認定看護師教育課程入試委員
- ②日本看護協会看護研修学校認定看護師教育課程集中ケア学科講師
- ③看護系大学、研究会、セミナー等講師 5件
- ④学会発表（共著論文 1件、ワークショップ 1件）
- ⑤執筆 7件
- ⑥日本集中治療医学会看護部会常任委員
- ⑦日本集中治療医学会関東甲信越地方会看護部委員

2) 小児看護

3人は、それぞれ病棟配置である。個々の活動は以下(1)～(3)のとおりである。

- (1) 自部署と自施設内において小児看護専門看護師を認知してもらい、6つの役割を果たせ、活用される人材となれるように活動した。
教育では、子ども医療センター内の勉強会の企画・運営、講師、院内研修会の講師やアドバイスをした。相談では、看護研究に関してが多く、看護研究の指導者として活動した。
社会活動は、栃木県特別支援教育室からの依頼で医療的ケア中央研修会の講師を行った。
また、栃木県看護協会の広報活動に参加した。
- (2) 部署内：専門看護師の活動を通して役割を理解し、活用してもらえるように働きかけた。
部署外：小児泌尿器科外来で外来・病棟看護師と医師が、情報の共有化を図れるように調整し、連携を強化する活動を行った。
院内：看護理論の講義、小児看護に関する勉強会を実施した。
院外：医療的ケアに関する勉強会を実施した。
研究：子ども医療センターにおいて小児看護領域に関する研究のサポートを行った。
学会や研究会に参加し自部署で知見を報告した。
- (3) 部署内：受け持ち看護師や他職種と協働し、集中治療を受ける子どもと家族のケアの検討
部署外：勉強会や看護研究支援などを通して、組織において専門看護師として活用される基盤づくり
講師：院内 6回 院外 1回
学会参加：5回（1回は司会、3回は演題発表）
学会・委員会活動：小児看護専門看護師事例検討会の事務局員
科学研究費補助金による心臓カテーテル検査・治療に関する研究への参加

3) がん看護

専門看護師は緩和ケアの認定看護師でもある。

今年度の活動は認定看護師としての活動が主であったため、後述の認定看護師の活動（緩和ケア）の項のとおりである。

認定証は平成23年12月に届いた。

7. 認定看護師の活動

昨年度は緩和ケアの認定看護師が退職し、今年度は感染管理、透析看護の認定看護師が、各1人ずつ増え以下のように17人となった。

緩和ケア(1人)、集中ケア(2人)、糖尿病看護、皮膚・排泄ケア(2人)、救急看護、手術看護、新生児集中ケア(2人)、感染管理、乳がん看護、がん化学療法看護、摂食・嚥下障害看護、がん放射線療法看護である。

今年度はがん性疼痛看護2人、小児救急看護1人を目指

しており、2人は受講修了、1人は受講中である。
認定看護師の役割は「実践」、「指導」、「相談」の3つであり、今年度の認定看護師の活動は以下である。

1) 緩和ケア

- (1) 緩和ケアチームの一員として依頼のあった入院患者・外来患者に継続的な看護支援を行う。
- | | |
|-------------|------|
| 全人的苦痛に対する支援 | 288件 |
| 家族支援 | 144件 |
| 遺族支援 | 85件 |
- (2) 疼痛マネジメント・家族ケア・患者家族に対する緩和ケアオリエンテーション等 10件
- (3) 病棟カンファレンスへの参加を通し、実践のアウトカムを客観的に評価し、今後のケアにつながる事ができるよう指導を行った。
- (4) 講師
- | | | | |
|----|----|----|----|
| 院内 | 3件 | 院外 | 2件 |
|----|----|----|----|
- (5) 学会、研修会への参加

2) 集中ケア

- (1) 人工呼吸安全管理対策チームの一員として一般病棟で人工呼吸管理を受けている患者の巡視（1回／週、他のメンバーと交替で実施）
- (2) 人工呼吸安全管理対策チームの勉強会の企画・運営
- (3) 講師
- | | |
|----|---------------------|
| 院内 | 3回（フィジカルアセスメント 薬剤師） |
| 院外 | 1回（気管吸引について） |
- (4) 部署内での取組み
- ・看護研究指導、支援
 - ・新人対象の勉強会
- (5) 学会参加 3回
- (6) 認定看護師会役員活動 3回／年
- (7) 執筆活動 3件
- (8) 実習受け入れ指導
認定看護師教育課程 1校

3) 皮膚・排泄ケア

- (1) 褥瘡管理
- | | |
|----------|--------|
| ハイリスク票確認 | 2,576件 |
| ハイリスク算定 | 1,712件 |
- (2) 処置
- | | | |
|------|---------|------|
| 褥瘡 | 385件、創傷 | 182件 |
| ストーマ | 524件、失禁 | 25件 |
| その他 | 110件 | |
- (3) コンサルテーション
- | | |
|--------|------|
| 院内相談件数 | 385件 |
| 院外相談件数 | 5件 |
- (4) 院内活動
- | | |
|-------------|------|
| 勉強会 | 24回 |
| 褥瘡対策委員会 | |
| 二分脊椎カンファレンス | 1回／月 |
- (5) 院外活動
- 小児排泄ケアネットワーク
 - 栃木県ストーマ研究会編集委員
 - 褥瘡学会関東甲信越地方会栃木県支部世話人
 - 排尿プラクティス研究会幹事

- (6) 執筆活動 2件
- (7) 講師 院外 9回、患者会参加 1回
- (8) 学会・研修会に参加 14回（うち発表 1回）

4) 糖尿病看護

- (1) 外来療養支援
- | | |
|------------|------|
| 在宅療養支援 | 571件 |
| フットケア支援 | 91件 |
| コンサルテーション | 58件 |
| 自己注射導入支援 | 55件 |
| 血糖自己測定導入支援 | 50件 |
| 電話・メールでの相談 | 35件 |
| 家族支援 | 14件 |
| その他 | 6件 |
- (2) 院内の勉強会 13回
- (3) 講師 院内 4回、院外 6回
看護学校での講義
- (4) 実習生の受け入れ
看護学部3・4年生
日本看護協会認定看護師教育課程 1校
- (5) 院内活動
- ①NST運営委員として1回／週の回診に参加
 - ②内科外来看護師と1回／月、カンファレンスの実施
 - ③内分泌代謝科の病棟で1回／月、糖尿病教室の実施
- (6) 院外活動
- 日本下肢救済・足病学会評議委員
 - 日本看護協会認定看護師入試委員
 - 栃木県糖尿病看護事例研究会 理事
 - とちぎDM医療スタッフの会 理事
 - ①栃木つばみの会サマーキャンプの企画と同行
 - ②栃木ヤングの会のサポート
 - 学会活動
 - ①日本下肢救済・足病学会学会誌 査読 2件
- (7) 学会・研修会への参加 13回（発表 1回）

5) 救急看護

大学院への進学で休職のため活動はなかった。

6) 手術看護

- (1) 院内活動
- ①麻酔科術前外来への介入
 - ②術後訪問の導入 実施率10%
 - ③手術室見学・体験研修の実施（12回、60人）
 - ④ラダー評価に沿った勉強会の支援
症例報告会の実施 5回
 - ⑤勉強会の実施 4回
 - ⑥コンサルテーション
部署内 19件、院内 1件、院外 2件
- (2) 院外活動
- ①院外講師 8回

- ②学会セミナー講師 1回
- ③日本手術学会指名理事
- ④日本手術医学会教育委員
- ⑤とちぎ手術看護情報交換会世話人
- 学会参加 2回
- 執筆活動

7) 新生児集中ケア

- (1) 新生児蘇生法インストラクター
 - Aコース 2件
 - Bコース 2件
- (2) 新生児集中ケア認定看護師の実習生の受け入れ
- (3) 院外講師 1回
- (4) 執筆活動 2件
- (5) 学会・勉強会 3回 (うち1回発表)
- (6) 院内勉強会 40回
 - テーマは以下等
 - 「手術室における初期ケア」
 - 「ポジショニング」
 - 「早産児の挿管介助とケア」
 - 「看護技術レクチャー 保育器交換」
 - 「新生児の痛みのアセスメントとケア」
 - 「ファミリーセンタードケアの概念について」

8) 感染管理

- (1) 院内活動
 - ①各部署からの相談と支援
 - ②アウトブレイク対応
 - ③感染防止対策管理加算算定のための感染対策チームによる各病棟巡視 1回/週
 - ④院内感染対策委員会 1回/月
 - ⑤血液・体液暴露(針刺し)に伴う職業感染防止の為に活動
 - ⑥ICT活動 組織横断的部署別巡視の実施と巡視結果を基にした部署別フォローアップ勉強会の開催
 - ⑦職員教育(クラーク・ナースエイド研修講師)
 - ⑧研修医対象の感染防止対策技術教育の支援
 - ⑨リンクスタッフスタディ企画・運営
 - ⑩新人看護師集合教育(感染防止)
 - ⑪人工呼吸器安全管理対策チーム活動への参加
- (2) 院外活動
 - ①TRICK活動・院内感染対策担当者の研修会の企画・運営
 - ②院外教育・講師
 - ③他施設からの相談
 - ④学会・研修会への参加 5回
 - ⑤執筆活動
- (3) サーベイランス
 - ①医療関連感染サーベイランスの実施(ICU)
 - ②厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業部門参加(ICU)

9) 乳がん看護

- (1) 患者・家族への支援 794件
 - ①治療継続・在宅療養支援、グリーフケア
 - ②告知後支援、意思決定支援
 - ③リンパ浮腫、ボディイメージ変容への支援
 - ④リハビリ支援
 - ⑤家族支援、その他
- (2) コンサルテーション
 - 院内 29件 院外 3件
- (3) 院内活動
 - 講師 リンパ浮腫ケア勉強会 5回
 - 乳がん看護勉強会 3回
 - 患者会「ピンクリボン桜の会」開催 5回
 - 学生実習指導 がん看護専門看護師実習指導
 - 看護学部生実習指導
- (4) 院外活動
 - ①社会活動
 - ・栃木BCN研究会世話人
 - ・栃木県内患者会サポート
 - ・講師 4回
 - ②学会・研究会活動
 - ・研究発表 1件 投稿論文 1件

10) がん化学療法看護

- (1) 外来治療センターを中心とした看護実践
 - ①化学療法オリエンテーション 205件
 - ②有害事象ケア 184件
 - ③意思決定支援 34件
 - ④家族支援 37件
 - ⑤コンサルテーション 106件
- (2) 院内勉強会へ関わり 19回
- (3) 院外講師 10回
- (4) 学生指導
- (5) 執筆活動 1件
- (6) 学会・研究会・セミナーに参加 9回

11) 摂食・嚥下障害看護

- (1) 院内活動
 - ①各部署からの相談件数 46件
 - ②新人看護師の教育・指導
 - 「食事介助と口腔ケア」
 - 「経管栄養」
 - ③勉強会の実施
 - NST連絡員会「嚥下障害患者へのケア」
 - 医療安全講演会「経鼻胃管の位置確認の徹底と安全な挿入手技」
 - 5病棟勉強会「摂食・嚥下障害患者へのケア」
 - ④その他
 - ・NST運営委員会活動
 - ・NST回診への参加
 - ・嚥下、口腔ケアチーム活動
 - 「嚥下造影検査と嚥下カンファレンス」

- (2) 院外活動
- ①院外講師 8回
 - ②学会・研修会・セミナーへの参加 3回

12) がん放射線療法看護

- (1) 放射線治療部での看護実践
- ①放射線療法オリエンテーション 206件
 - ②有害事象ケア 667件
 - ③意思決定支援 5件
 - ④治療継続支援 41件
 - ⑤リンパ浮腫ケア 100件
 - ⑥家族支援 5件
 - ⑦相談 22件
 - ⑧指導 5件
- (2) 院内活動
- 放射線治療計画カンファレンスに参加 1回/週
 - 耳鼻科とのカンファレンス参加 1回/2週
 - 口腔外科とのカンファレンスに参加 1回/2週
 - リンパ浮腫ケア勉強会基礎編 5回
 - がん放射線療法看護勉強会 4回
 - 放射線治療見学会 11回
(一般成人・小児・全身照射対象)
- (3) 院外活動
- 学会・研修会・セミナーへの参加 8回
(うち発表4回)
 - 院外講師 3回

13) 透析看護

- (1) 透析部での看護実践
- ①血液透析・腹膜透析療法を継続する患者・家族に対し、透析の導入と継続という身体的・精神的な変化を受容し、セルフケアができるよう支援安定した透析を継続できるよう支援
 - ②CKDステージ3～5の患者を対象に、保存期の過ごし方、療法選択支援を目的とし保存期・療法選択糖尿教室(とちまめ会)に参加
- (2) 勉強会の企画・運営
- ①透析の基本に対する理解 3回
 - ②CKD及び腎代替療法、透析患者の理解 2回
- (3) 学会・勉強会への参加
- 日本透析医学会、栃木県透析学会、透析看護認定看護師会、栃木県腎不全透析看護勉強会

8. 平成23年度重点項目に対する取り組みの経過

4. で重点項目とした1)～3)の平成23年度の重点項目を達成するためにBSCを活用し取り組んだ。前述の委員会、プロジェクトの活動、専門・認定看護師の活動があった。その他の経過は以下である。

- (1) 看護師の確保
- 今年度も一般病棟入院基本料7:1が継続できた。看護師の確保に関しては、昨年同様、人事課・経営管理課・看護部で協力して行った。対象

の学生の就職活動が早まっていることから、年度早期から病院合同説明会への参加、当院での病院見学会の実施、インターンシップに取り組んだ。平成24年4月1日付、120人の看護職員が採用内定している。しかし、PICUの増床、維持透析部の開設等があること、育児休業明けの短時間勤務正規職員制度が利用されること等、働きやすい職場の条件として整備されてきてはいるが、夜勤のできる看護職の不足が懸念される現状である。昨年度、看護職員の強い要望で開設された夜間保育所は効果的に利用されていない状況がある。今後の大きな課題である。

また、看護師の業務軽減の一環として臨時的看護補助員が20人採用された。脳神経センター、循環器センター、8階東病棟に配置された。75:1補助加算を取得している。

- (2) 超過勤務時間の一割減を目指して取り組んだ。
- 3部署異動しての新人教育等で、指導する側のスタッフの負担が超勤に反映されることが予測されたが、全体平均では昨年を下回った。
- 職員の増員、2交替制への移行(31部署中2交替は23部署になっている)、夜間のメッセージの導入等で業務軽減につながっていると考えられる。超過勤務時間の一割減は達成できていない。
- (3) 安全な看護の提供のために、看護師長を対象に事象分析の勉強会を開催した。講師には当大学シミュレーションセンターの河野龍太郎センター長をお願いした。
- (4) 防災対策の充実としては、当大学、附属病院として、防災マニュアルを見直し検討しているところである。3.11の記憶が新しいうちにということで、各部署からの情報を基に、看護師長が中心になりフローシートを作成し、病院(経営管理課)に提出した。
- (5) 看護職間の交流
- 一昨年度はドッジボール大会を実施した。昨年度は「大縄飛び」を3月に行う予定であったが、前日に東日本大震災が発生し中止となった。今年度は川柳大会ということで担当者が準備している。

なお、新人看護職員の教育等は、今年度からシステムを変えて取り組んでいるが、看護職キャリア支援センターのアンニュアルレポートを参照していただきたい。

9. 看護部教育実績

新人看護職員臨床研修制度のスタートに合わせて、看護部の全職員が成長するという目標のもと、様々な取り組みが始まった年である。教育では、プログラムに基づいた研修の実施とキャリア開発支援システム「ナースナ

び]導入に向けての準備が大きな特徴となっている。(新人看護職員臨床研修については看護職キャリア支援センター参照)

- (1) 院内集合教育プログラムは、STEPレベル以上の全プログラムは、計画どおり実施できた。
- (2) 2007年度に導入開始したキャリア開発支援プログラム (JASMIN) について2011年度全職員からの調査を実施している。5年目以上の看護師の41%は以前の経年別研修と比べ、自身の能力開発が意識できるようになったと回答している一方で、日々の業務で精一杯と回答する看護師もいた。これらの結果と2011年度導入となった新人看護職員臨床研修制度により、JASMINも見直す時期に来ている。「頑張っている人を応援する」コンセプトから「頑張って成果を上げている人を評価する」ことに移行できるように2011年度は、評価で一定の基準に満たない人は、再レポート評価や不合格とすること、2013年度から過去の研修を振替えて認めることはしないという方針を出した。
- (3) 地域派遣研修では現地面接において、共通の評価票を基に学習状況の確認をすることができた。各々の残された研修期間での学習目標も再調整できていることを確認できた。
- (4) 地域派遣支援連絡会では、連絡会の内容や研修の案内も含めて早めに情報提供を行うということで、派遣通信の奇数月を看護副部長が、偶数月を各委員が担当して作成した。派遣支援責任者会を年2回開催していたが、派遣研修の面接や評価等が浸透してきたことと、各施設の看護部長の意見も確認して、年1回の開催にすることとした。
- (5) キャリア開発支援システム「ナースナビ」の本格的導入に向けてお知らせ文を発行して、準備を行った。院内研修は平成23年度から、院外研修は平成24年度から運用開始としている。
- (6) 教育担当看護副部長と教育担当看護師長は、シミュレーションセンターを兼務している。今年度は、教育担当師長が中心となり、医学部4年生の Student Doctor称号付与後の臨床実習前研修において、患者体験をとおしての研修を計8回実施した。事前に看護師長全員から調査して、学生に学んでもらいたいことを患者体験を通して伝えることができた。初めての試みであったが、共有する臨床現場で学生が効果的に実習を展開するために効果的な研修と考える。看護側からは協力してもらいたいことを直接伝えることができた。学生の接遇・態度・服装についても直接指導することができた。
- (7) 数年前から取り組んでいたJASMINのネットワーク (看護管理者対象) ラダー表について、「看護

副部長、看護部長」について検討した。

平成23年度研修・学会等実績

表1. JASMIN研修実績

項目 研修の種類	開催日数	時間数 (日数×8h)	受講者数 (人)	講師・委員(人)			参加合計 (人)
				学 外	学 内		
					医師・教員他	看護師	
STEPコース							
クリニカルシンキングⅠ	12	96h	127			51	228
リーダーⅠ	4	32h	102	8		8	118
研究Ⅰ	3	12h	103			46	137
MAINコース							
研究Ⅱ	2	16h	59			29	88
クリニカルシンキングⅡ	2	16h	91			16	107
リーダーⅡ	2	16h	93		2	7	102
INTEGRALコース							
クリニカルシンキングⅢA	0.2	0.2	5				
クリニカルシンキングⅢB	12	96h	49			57	114
リーダーⅢ	2	16h	34			8	42
合 計	39.2	300.2h	663	8	2	222	936

	開催日数	総研修時間	受講人数	院内講師	研修委員担当	研 修 総参加人数
管理者研修						
主任研修	6	14h	313	11	/	324
師長研修	2	10h	232	1		233
師長・主任合同研修会	1	12h	105			105
合 計	9	36h	650	12		662
クラーク・看護補助員研修						
クラーク研修	1	4	35	1	4	40
看護補助員研修	3	12	125	6		131
合 計	4	16h	160	7	4	171

表2. JASMIN認定者(人)

MAIN コース 認定者	55
INTEGRAL コース 認定者	3

表3. 学会発表・講師派遣等

		発表題数
学 会 関 係	看護協(日・栃看協)	7
	専門領域学会	17
	研究会等	7
そ の 他	学会座長	2
	雑誌投稿	7
	講師派遣	68

表4. 院外研修参加者数(学会含む)

主催・参加	人 数
日本看護協会	38
栃木県看護協会	290
研究会・協会以外の学会 研修会など	186
合 計	514

表5. 他施設からの実習・研修・見学受け入れ

1	栃木県立衛生福祉大学校	34名	13	ALS 患者在宅療養支援研修会	1名
2	栃木県県南高等看護専門学校	5名	14	特定看護師実習（感染管理）	1名
3	国際医療福祉大学看護学科	84名	15	宇都宮社会保険病院（ICU 見学研修）	12名
4	足利短期大学3年生	13名	16	宇都宮社会保険病院（サードレベル見学研修）	1名
5	茨城県結城看護専門学校見学実習	41名	17	三井記念病院（ICU 見学研修）	1名
6	東京衛生学園通信制2年課程見学実習	13名	18	古河赤十字病院（子ども医療センター研修）	9名
7	実践女子大学4年生見学実習（保育士）	42名	19	滋賀県立成人病センター（中央放射線部）	1名
8	実践女子大学4年生保育実習（病児保育）	1名	20	国際医療福祉病院（ICU 研修）	2名
9	川崎医療短大3年生保育実習（保育士）	2名	21	芳賀赤十字病院（NICU）	2名
10	認定看護師教育課程（日看協・2分野）	4名	22	東京医科歯科大学院（ICU）	1名
11	認定看護師教育課程（北里大学・新生児）	2名	23	職場体験（国分寺中、下館南中、真岡西小）	13名
12	養育支援従事者研修（栃木県）	12名	24	高崎健康福祉大学看護学科	2名
	養育支援従事者（公開講座）	20名		合 計	319名

表6. 他校の非常勤講師担当

1	栃木県立衛生福祉大学校（本科・専科）	15名
2	栃木県県南高等看護専門学校	1名
3	マロニエ医療福祉専門学校	2名
4	茨城県結城看護専門学校	2名
5	日本保健医療大学	5名
	合 計	23名